

2022年10月14日八尾の史跡散策時に観察した植物

作・岡田 弘

ハナミズキ（花水木）ミズキ科サンシュ属、別名アメリカヤマボウシ

北米原産、日本へは、1912年東京市長であった尾崎行雄がワシントンD.Cにサクラの苗木100本贈った返礼として、1915年にハナミズキ60本（白花40本ピンク花20本）贈られてきたのが最初である。その時のハナミズキは第2次世界大戦時に伐採されて今では東京園芸高等学校により残っていない。ハナミズキの**名前の由来**＝ミズキの仲間では日本のミズキよりも美しく目立つので、別名のアメリカヤマボウシは日本の近縁種ヤマボウシに似ているから、花卉に見えるのは総苞で中心の塊が花、花卉に見える総苞の先が凹んでいる、日本のヤマボウシは先が尖っている。日本では街路樹や庭木に使われ高さ5mほどだが、原産地では12mにもなる。***花言葉**＝永続性・返礼・私の愛を受けてください。



コメヒシバ（小雌日芝）イネ科メヒシバ属

人家の隅や道端の日陰に弱弱しく生えている、メヒシバに似ているが、茎も細くて花穂が2～4又に分かれている、メヒシバは3～5又で茎も太い、この季節はアキノメヒシバが目立つ、背が高く群生している、コメヒシバは人家近くに生育しているので古い時代に日本に帰化したのではと言われるが不明。***花期**＝7～10月



アレチハナガサ（荒地花笠）クマツヅラ科クマツヅラ属

南アメリカ原産の多年草、1969年頃日本で見付かる、現在は関東以西に広く分布、河川敷や空き地に第群落を作っている、特徴は茎が4稜（四角）紫色の小さな花を穂状の上に多数つけている、葉は広線形、互生ではば半分より先に鋭い鋸歯がある、***名前の由来**＝荒地地に茎の天辺に小さな花が寄せ集まり菅笠に花飾りを付けた花笠の様に見えるのに由来***花言葉**＝心を奪われる・芯が強い。***花期**＝6～9月



チドメグサ（血止草）ウコギ科チドメグサ属 花期＝6～10月

本州～沖縄に分布、道端や庭、溝の隙間などに生えている、茎は良く分枝して節からヒゲ根を出して増える。葉は直径1cmほど（環境により変わる）円形で掌状に浅く裂け、基部は心形ふちに3～5個の鋸歯がある表面光沢がある、花は葉腋から1cm位の花柄を出し緑色の小さな花を10数個固まって咲かせる。***名前の由来**＝昔、葉を揉んで止血した所からの名。実際には効果無いのでしない方がよい。***花言葉**＝無い。（同じ仲間のオオチドメグサには正義の花言葉）



ツメグサ（爪草）ナデシコ科ツメグサ属

日本全国に分布、***名前の由来**＝葉が鳥の爪のような形をしているから。また、葉の形が切った爪に似ていることから由来などある。生命力は強く道端やアスファルトの割れ目や隙間に自生している。葉は細い線形、針状で先が尖る、茎は根元で分枝して地を這い広がる、花は茎の先端に1個、白い5弁の花を咲かせる、***花言葉**＝小さな爪痕 +**花期**＝3～7月



スズメノカタビラ（雀の帷子）イネ科イチゴツナギ属

名前の由来＝カタビラとは着物の事です、穂が集まって咲く姿が雀サイズの着物に見立てたことから名付けられた。***花言葉**＝私を踏みつけしないで踏まれても踏まれても枯れない強靱な生命力がある、日本全国に分布している、様々な場所に自生、道端、庭、畑、空き地、など繁殖力強いことから厄介な雑草として嫌がられている、草丈は10～20cmほどで見た目には葉は明るい緑色で平で線形、花は円錐花序に咲き白色で、目立たない、



その他、過去に紹介した多く有った野草。



アメリカセンダングサ



ツルヒメソバ



タチスズメノヒエ



メリケンカルガヤ



アキノエノコログサ



アキメヒシバ